

令和3年5月27日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

## 病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

## 令和3年度病虫害発生予報第3号

令和3年5月27日  
岡山県

## 予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — —	<b>やや多</b> 少 少 並
ジャガイモ	疫病	並	並
モモ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— <b>早</b> — 遅 — —	<b>やや多</b> <b>やや多</b> <b>やや多</b> 少 やや少 並
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	<b>やや早</b> 並 <b>やや早</b> 遅	<b>やや多</b> やや少 <b>やや多</b> やや少
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	並 — —	並 並 <b>やや多</b>
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— 並 並	<b>やや多</b> 並 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	並 —	並 並
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	やや少 並 並
キク	白さび病 ナミハダニ	— 並	<b>やや多</b> 並

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月20日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並み、降水量は平年より多いとされており、発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40~60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

#### (2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代成虫) 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は8.0頭であり、平年(83.0頭)より少なかった。

#### (3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代成虫) 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場において5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は1.0頭であり、平年(13.8頭)より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

#### (4) ニカメイガ(越冬世代成虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月5半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

### (ジャガイモ)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月13日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月20日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並み、降水量は平年より多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 2. 果 樹

### (モ モ)

#### (1) 灰星病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月6日の巡回調査における花腐れの発生圃場率は14.3%（平年13.6%）で平年並であったものの、5月21日の巡回調査における芽枯れ、枝病斑の発生量は平年よりやや多く、幼果への感染量は平年よりやや多いと考えられる。

イ. 5月20日の季節予報（1か月予報）によると、降水量は多いとされており、発生を助長する条件となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. モモの生育は平年より早めに推移している。

イ. 5月21日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年並であった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月の降水量は平年よりやや多かつたため、幼果への感染は平年よりやや多いと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、発病葉の発生圃場率は10.7%で平年（18.5%）並であり、一部圃場では発病果が認められている。

イ. 5月20日の季節予報（1か月予報）によると、降水量は多いとされており、発生を助長する条件となる。

ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生と関係の高い「昨年の8月中旬の発生圃場数」は多い（岡山県病害虫防除所調査）。

防除上の参考事項

ア. 令和2年度植物防疫情報第13号（3月12日発表）参照。

(4) モモハモグリガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 **遅** 発生量 **少**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月23日まで誘殺を認めておらず、平年（5月16日）より遅い。

イ. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（1.5頭）より少なかった。

ウ. 5月21日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（5.7%）より低かった。

エ. 5月20日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温はほぼ平年並みで降水量は多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（2.0頭）より少なかった。

イ. 5月21日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は7.1%で平年（7.1%）並であった。

ウ. 5月20日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温はほぼ平年並みで降水量は多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は58頭で、平年（22.1頭）より多く、ツヤアオカメムシの誘殺数は8頭で平年（15.2頭）より少なかった。フェロモントラップでのチャバネアオカメムシ誘殺数は84頭で、平年（272.3頭）より少なかった。

イ. 5月21日の巡回調査によると、果実被害の発生圃場率は35.7%で平年（15.4%）よりやや高く、発生程度は軽微であった。

ウ. 5月20日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温はほぼ平年並みで降水量は多いとされており、本虫の飛来を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 やや早 発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育は平年よりやや早めに推移している。

イ. 県予察圃場のピオーネ、ネオマスカットにおいて、平年と同様に5月下旬まで発生を認めていない。

ウ. 5月21日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月20日の季節予報（1か月予報）によると、降水量は多いとされており、発生を助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育は平年よりやや早めに推移している。

イ. 5月の日照時間は平年よりやや少なく本病の発生を助長する気象条件ではない。

ウ. 5月20日の季節予報（1か月予報）によると、降水量は多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや早 発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育は平年よりやや早めに推移している。

イ. 5月21日の巡回調査によると、発病花穂の発生圃場率は27.3%で平年（0%）より高かった。

ウ. 5月20日の季節予報（1か月予報）によると、降水量は多いとされており、発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 令和3年度植物防疫情報第1号（5月26日発表）参照。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 遅 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 5月21日の巡回調査によると、被害発生圃場率は0%で、平年(6.1%)より低かった。
- イ. 5月20日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並みで降水量は多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

### 3. 野菜

(トマト)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期            並                                    発生量            並

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査では発生を認めず、平年(5.1%)並であった。
- イ. 5月20日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並み、降水量は平年より多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

#### (2) 灰色かび病

予報内容

発生量                                並

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年(45.0%)よりやや低かった。
- イ. 5月20日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並み、降水量は平年より多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

#### (3) 葉かび病

予報内容

発生量                                **やや多**

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(26.5%)よりやや高かった。
- イ. 5月20日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並み、降水量は平年より多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

- ア. 本病の初発生時期(雨除け栽培トマトでは6月下旬~7月上旬)と病勢進展時期(7月下旬~8月上旬)に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

#### (1) ベと病

予報内容

発生量                                **やや多**

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は60.0%で平年(28.1%)よりやや高かった。
- イ. 5月20日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並み、降水量は平年より多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

#### (2) 褐斑病

予報内容

発生時期            並                                    発生量            並

予報の根拠



- ア. 5月21日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。  
イ. 5月20日の季節予報によると、6月の気温はほぼ平年並みであり、本虫の発生を助長する条件ではない。

#### 4. 花 き

(キ ク)

##### (1) 白さび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は11.1%で平年(4.7%)よりやや高かった。  
イ. 5月20日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並み、降水量は平年より多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

##### (2) ナミハダニ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(0%)並であった。  
イ. 5月20日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並み、降水量は平年より多いとされており、特に本虫の発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

